

■正誤問題 (要点確認 29 問)

排水設備に関する問題です。○×で回答して下さい。×の場合は、なぜ間違っているのかも考えてみましょう。

1. Sトラップは、Pトラップに比べて、自己サイホン作用による封水損失を起こしやすい。
2. 自然流下式の排水立て管の管径は、一般に、上層階より下層階のほうを大きくする。
3. 飲料水用受水槽のオーバーフロー管の排水は、一般排水系統の配管に間接排水とする。
4. 排水横枝管の管径は、これに接続する器具排水管のうちの最大管径以上とする。
5. 排水立て管の上部を延長して設ける伸頂通気管の管径は、排水立て管の管径より小さくしてはならない。
6. 通気管の横管は、その階の最も高い位置にある衛生器具のあられ縁より 10cm 以内上方で横走りさせて配管する。
7. 雨水排水立て管は、通気立て管と兼用してはならない。
8. 通気管の末端は、窓等の開口部付近に設ける場合、その開口部の上端から 60cm 以上立ち上げるか、又は水平に 3m 以上離す。
9. 排水立て管の上部は、伸頂通気管として延長し、大気中に開口する。
10. 排水トラップの封水深は、一般に、5～10cm とする。
11. 飲料用冷水器の排水は、一般排水系統の配管に間接排水とする。
12. 汚水や雑排水を貯留する排水槽の底部には吸込みピットを設け、その槽の底部はピットに向かって下がり勾配とする。
13. 通気管を設ける目的の一つとして、排水トラップの封水の保護がある。
14. 雨水排水管(雨水排水立て管を除く)を敷地内の汚水排水管に接続する場合には、トラップますを設ける。
15. 雨水排水立て管は、通気立て管と兼用することができる。
16. 排水トラップを設ける目的は、排水管内の臭気・衛生害虫などの室内への侵入を防止することである。

17. 排水管内の圧力変動が大きい場合は、排水トラップを二重に設ける。
18. 排水タンクに設けるマンホールは、有効内径 60cm 以上とする。
19. 雨水排水管(雨水排水立て管を除く)を敷地内の汚水排水管に接続する場合は、トラップますを設ける。
20. 敷地内に埋設する排水管の合流箇所や方向変換箇所などには、排水ますを設ける。
21. 通気管は、排水管内の圧力変動を緩和するために設ける。
22. 飲料用冷水器の排水は、一般排水系統の排水管に直接接続する。
23. 間接排水を受ける水受け容器には、排水トラップを設ける。
24. 洗濯機から、一般排水系統の排水管に排水する場合は、間接排水とする。
25. 営業用厨房の排水管系統には、グリース阻集器を設ける。
26. 排水立て管の上部は、管径を縮小せずに延長し、大気に開放して伸頂通気管とする。
27. 間接排水の目的は、汚水や臭気などの逆流・侵入防止である。
28. 通気立て管の下部は、最低位の排水横枝管より低い位置において、排水立て管又は排水横主管に接続する。
29. 中高層の建築物の場合、一般に、1 階の衛生器具からの排水管は、単独に屋外の排水ますに接続する。



■正誤問題 解答編

1. Sトラップは、Pトラップに比べて、自己サイホン作用による封水損失を起こしやすい。
1. ○
2. 自然流下式の排水立て管の管径は、一般に、上層階より下層階のほうを大きくする。
2. × 自然流下式の排水立て管の管径は、排水負荷の最も大きな最下部に基づいて求めた管径とします。上層階より下層階のほうを大きくするような管径としてはいけません。
3. 飲料水用受水槽のオーバーフロー管の排水は、一般排水系統の配管に間接排水とする。
3. ○
4. 排水横枝管の管径は、これに接続する器具排水管のうちの最大管径以上とする。
4. ○
5. 排水立て管の上部を延長して設ける伸頂通気管の管径は、排水立て管の管径より小さくしてはならない。
5. ○ 排水立て管上部の伸頂通気管の管径は、排水立て管の管径と同一とする。
6. 通気管の横管は、その階の最も高い位置にある衛生器具のあふれ縁より 10cm 以内上方で横走りさせて配管する。
6. × 通気横枝管が横走りする位置は、排水が流入しない高さ、その階の最高位にある衛生器具のあふれ縁より 15cm 以上高くする必要があります。
7. 雨水排水立て管は、通気立て管と兼用してはならない。
7. ○
8. 通気管の末端は、窓等の開口部付近に設ける場合、その開口部の上端から 60cm 以上立ち上げるか、又は水平に 3m 以上離す。
8. ○ 通気管の末端の開放口は、周辺への臭気が拡散するので、窓等の開口部から離す必要があります。末端口が窓や換気口の上方にあるときは 60cm 以上、横にあるときは 3m 以上離す。
9. 排水立て管の上部は、伸頂通気管として延長し、大気中に開口する。
9. ○
10. 排水トラップの封水深は、一般に、5~10cm とする。
10. ○
11. 飲料用冷水器の排水は、一般排水系統の配管に間接排水とする。
11. ○

12. 汚水や雑排水を貯留する排水槽の底部には吸込みピットを設け、その槽の底部はピットに向かって下がり勾配とする。

12. ○

13. 通気管を設ける目的の一つとして、排水トラップの封水の保護がある。

13. ○

14. 雨水排水管(雨水排水立て管を除く)を敷地内の汚水排水管に接続する場合には、トラップますを設ける。

14. ○

15. 雨水排水立て管は、通気立て管と兼用することができる。

15. × **雨水排水立て管は、通気立て管と兼用してはならない。雨水排水立て管が詰まった場合に、雨水が衛生器具からあふれ出たり、降雨時に衛生器具のトラップの封水が破れることがある。**

16. 排水トラップを設ける目的は、排水管内の臭気・衛生害虫などの室内への侵入を防止することである。

16. ○

17. 排水管内の圧力変動が大きい場合は、排水トラップを二重に設ける。

17. × **二重トラップは、排水トラップの封水破壊を生じたり、汚水の流れをとどこおらせたりします。**

18. 排水タンクに設けるマンホールは、有効内径 60cm 以上とする。

18. ○

19. 雨水排水管(雨水排水立て管を除く)を敷地内の汚水排水管に接続する場合は、トラップますを設ける。

19. ○

20. 敷地内に埋設する排水管の合流箇所や方向変換箇所などには、排水ますを設ける。

20. ○

21. 通気管は、排水管内の圧力変動を緩和するために設ける。

21. ○

22. 飲料用冷水器の排水は、一般排水系統の排水管に直接接続する。

22. × **飲料用冷水器の排水は、一般排水系統の排水管に直接接続してはいけません。**

23. 間接排水を受ける水受け容器には、排水トラップを設ける。

23. ○

24. 洗濯機から、一般排水系統の排水管に排水する場合は、間接排水とする。

24. ○

25. 営業用厨房の排水管系統には、グリース阻集器を設ける。

25. ○

26. 排水立て管の上部は、管径を縮小せずに延長し、大気に開放して伸頂通気管とする。

26. ○

27. 間接排水の目的は、汚水や臭気などの逆流・侵入防止である。

27. ○

28. 通気立て管の下部は、最低位の排水横枝管より低い位置において、排水立て管又は排水横主管に接続する。

28. ○

29. 中高層の建築物の場合、一般に、1 階の衛生器具からの排水管は、単独に屋外の排水ますに接続する。

29. ○

